

第10回 日本語スピーチ大会 2014

場所:かながわ県民センター 301 号室

開催日:2014 年 11 月 23 日(日)

スピーチ草稿集



氏 名	テーマ	出身国	所 属
李 博 決	日本の留学生生活で感じた事	中国	横浜国立大学
ダン ハイニュ	日本の生活	ベトナム	関東学院大学
屈 博 煒	地域活性化の進んでいる町の視察についての感想	中国	法政大学
ヌエン ダック ヒュー	ベトナムのお正月	ベトナム	横浜国立大学
レディシア サンデラ	バリのお正月	インドネシア	フェリス女学院大学
王 広 波	日中の文化の違い	中国	横浜国立大学 0B
ルブサンダンドル プレブツェンゲル	日本の留学で学んだこと	モンゴル	横浜国立大学

NPO法人 留学生と語り合う会 (RKK)





日本人と留学生の交流会



テーマ「日本の留学生活で感じた事」

李 博決 （中国出身） 横浜国立大学



ご紹介ありがとうございます！

皆様 おはようございます。横浜国大の李です。中国からきました。

今は横浜国大の大学院工学府で日本古来の和紙をベースとして、携帯やパソコンから出てきた電磁波を防ぐための研究をしています。

私の実家は中国の北にあって、大慶という町です。石油が沢山取れる事で有名です。

私の両親は芸能関係の仕事をしていました。母は、プロのオペラ歌手です。全国で行ったプロのコンテストで優勝した事があって、自慢の母です。父も、母と同じく、国営の芸能団体に仕事をしてました。今は北京でドラマ監督の仕事をしています。

よく頂いた質問は、両親は芸能関係の仕事をしているのに、君なぜ電子工学の勉強してんの？という質問です。

ほんの少し興味がある方はどのくらいいますか？実は小さい事からずっと歌手を目指してました。今もその夢を捨てていないです。後で詳細を知りたい方にこっそりお教えします。

母の影響で、私は4歳からピアノを習い始めました。学校のある日は4時間、休みの日は6時間のピアノ練習が日課でした。もちろん子供なので、嫌でピアノをやめようという時期もありました。しかし、母の言葉で、私はピアノに専念することができました。それは「ピアノがうまいと可愛い女の子にもてるよ！」って一言です。子供ってとても単純ですね。まあ、そのおかげで、中国でレベル一番高い10級というピアノ検定に合格しました。10年以上ピアノを習ってきた経験から、地道に努力する事は誰にも負けないという自信を小さい頃から培ってきました。

高校卒業して、日本に来る大きなきっかけは、日本人祖母の影響でした。祖母は戦争の時に中国に残って、いわゆる残留孤児です。祖母は20年間くらい前に日本に戻りました。

祖母のおかげで、日本の文化に沢山触れる事ができました。一番最初に印象的なのは日本の演歌です。とても好きだったのが石川さゆりの「津軽海峡・冬景色」です。歌詞の意味は当時わからなかったですが、若干悲しみ気持に包まれて、心に染みました。なぜ日本人女性が歌っている歌がそんなに綺麗なのか。不思議でしかなかったです。

実際に日本にきて、日本人の優れた人間性にとても印象に残りました。

私は理系なので、工場見学の機会を何回か頂きました。日本人は徹底的に品質へ拘って、商品を生み出す姿はとても立派だなと感じました。

また、サービスへの熱心さ、人への親切さ、礼儀の正しいさなども忘れられないほど印象に残りました。周りに、親切な日本人の方の支えがあったこそ、いろいろと頑張って来られたと思います。本当に心より感謝してます。

楽しい経験のほかに、悩み事ももちろんありました。

例えば、日本で耳にした中国のニュースは、大抵あまりよくないニュースが多いという事です。尖閣諸島

問題、食品問題、香港のデモ、空気汚染などです。もう少し自分の国がしっかりしてほしいですね。その中、尖閣諸島問題はピークの時に、私が少し凹んだ時期もありました。それは 2012 年研究室の仲間と一緒に、京都の大学で発表した時の事でした。ちょうど同期のメンバーがそろってホテルの部屋の中にいた時に、尖閣諸島のニュースが流れてきました。一人の同期が「中国はずるくない？李君これどういうことだよ」って私に言ってきました。「やあ、昨日共産党の幹部に電話して皆仲よくしようようって言ってたんだけどさ」と冗談を混ぜて答えました。しかし、実はとても複雑な心境でした。

凹んだ時期に、とても優しい日本人のチューターが私を救ってくれました。私の意見をしっかりと耳を傾けてくれて、あの国で実際に発生した事を客観的に一緒に見てくれました。「なるほど、これは難しい問題だね」と優しい言葉も頂きました。

国境（こっきょう）を超えても、理解し合う事は、実は思ったよりシンプルだなと改めて感じました。確かに政治的な問題が難しいけれど、国民の間の理解がどんどん深まれば、国同士の関係もよくなっていくはずです。

そう信じた私は、中国の文化、中国が抱えている問題と私の考えをできるだけ沢山のの人に伝える努力をしました。例えば、毎週 30 人程度の社会人向けの中国語を教えたり、そのほか、学校の推薦でロータリークラブの奨学生となったので、中小企業の社長あてに日本で感じた事を伝えたり、更に私の強みである音楽を生かして、中国の音楽を紹介したりもしました。なぜこのような活動を行うかという、それはきっと海の向こう側に私と同じような悩みを持って、でも今の日本を積極的に中国人に伝えよう、としている日本人が沢山いるからです。彼らと一緒に、日中友好のために、些細な事からでもやっていきたいです

最後となりますが、私が伝えたいメッセージをまとめると、二つあります。

一つ目は、中国にもっと時間を与えてください。きっとあの国は良くなっていくはずです。

二つ目は、日本以外の国の事情が発生した時、ぜひ周りの留学生や外国人の意見も聞いて頂きたいです。きっと目に目ない新たな発見があるはずです。

来年から私は日本社会についての勉強が本格的にスタートします。楽しみも、不安も、気持ちが複雑です。でも、変わらないのが、第二の故郷である日本が好きで、この街の人に好きだという気持ちです。これからもこの気持ちを大切に、今後の困難を乗り越えていきたいです。

テーマ「日本の生活」

ダン ハイニュ （ベトナム出身） 関東学院大学



皆さん、こんにちは。私は、ダンハイニュと申します。ベトナムからまいりました。現在、関東学院大学経済学科 1 年生です。今日は、夢を追いかけている日本の生活について話させていただきます。

日本に来る前、私は、ベトナムの大学生でした。大学の講義やゼミナールを通して、ベトナムに進出している日本企業を通して、日本経済や文化に関心を持ちました。私は、だんだん、日本に留学したい、そして、日本とベトナムの架け橋になろう

という夢を抱きました。そして、とうとう、両親に自分の夢を話しましたが、すごく反対されました。その理由は、とてもはっきりしていました。「女の子が外国で一人暮らし？何かあったら誰か助けてくれるの？とても不安だ。その上、日本は、世界中で物価が高いと言われている。日本での生活は、大変そうだ」ということでした。両親が私のことを心配するのは当然ですが、私は自分が選んだ道だからこそ、頑張って進みたいという強い気持ちで、何度も両親を説得しました。やっと、両親も承知してくれました。

2012年10月03日に、成田空港に到着しました。夢を追いかける私の日本での生活がスタートした日です。

私が、日本へ来てもう2年が経ちました。この2年間に本当に色々なことがありましたが、日本に来たばかりの頃のことは、昨日の日のようにはっきり覚えています。空港から学校までの景色も、日本の文化経済の水準の高さも、やはり、すばらしいものでした。日本に来て良かったという気持ちが高くなり、何より、自分の夢に向かって進めるとやる気も高まりました。

日本の生活は、日本語学校の女性寮に住んで、学校に通うことから始まりました。全員で10人の生活ですが、私以外は、中国人です。みんなは、日本語で挨拶ぐらいできましたが、私は、ほとんど話せないなので、すごく寂しく感じました。

留学生の私にとって、勉強が一番大切ですが、私は、経済的にアルバイトをしなければなりません。1ヶ月後、アルバイトが見つかりました。日本の職場は、厳しいと聞かされていたので、私は、初めてのアルバイトのことが、すごく心配でした。日本語が十分話せないなので、アルバイト先では、みんなのやり方に注意して、みんながやった通りにやり、メモもしました。そのおかげで、どんどん仕事が覚えられました。うれしかったです。

しかし、何事もよいことばかりではありませんでした。ある時、高校生の女の子と一緒に仕事をすることになりました。なぜか、彼女はいつも私に嫌な顔して、私のミスを探しているようでした。ある日、私のカートにわざとぶつかって、私の持っている商品が落ちて、壊れたことがありました。私は、腹を立てながらも、品物のことが心配でした。チーフが来ました。何と言われるのだろうか心配ばかりしていました。日本語で言い訳ができるほど、まだ話せませんでした。しかし、チーフには、怒られないで、「次に気をつけてください。頑張って」とだけ言われました。すごくほっとしました。

けれども、私は、日本に来て初めてこのようなことがあって、すごく落ち込んでしまいました。どうして、彼女は、私にあんな態度や行動をするのだろうか、他の外国人にも同じようにするのだろうか。私の日本語が下手なせいなのだろうか、とても悩みました。本当に、辛くて、辞めたかったが、両親に心配をかけないためにも、我慢して続けていくしかありませんでした。

その上、寮でも、作っておいたご飯が何度かなくなるということがありました。この頃は、本当に辛いことばかりで、毎日が嫌で嫌でたまりませんでした。誰とも話せなくなってしまいました。

おまけに、季節は、ベトナムでは体験できない冬の寒さがやってきていました。ものすごく孤独を感じました。ホームシックになってしまいました。スカイプで母には、「アルバイトや学校はどう？ちゃんとご飯食べている？」と言われました。私は、母に心配をかけたくないので、いつも笑顔で、「アルバイトはすごくいい、学校も楽しい、友達も出来た、みんな、すごく優しい」と答えていました。話終わると、母に会いたい、帰りたいという思いで、泣いてばかりいました。

そんな時、いつも 自分に話しかけていました。

「帰ろうか？」

でも、このまま帰ったら、自分が全く成長していないままで帰国することになってしまう、留学が無意味なものになってしまう。日本とベトナムの架け橋を作ろうという私の夢は消えてしまうのか。何度も、繰り返し、自問自答しました。そのうち、辛いと思う時期は、自分への挑戦ではないだろうかと思えるようになってきました。「乗り越えられる」なら、その時、私は、強くなって前に進めると思いました。辛い

ことがあっても自分の夢に向かって、頑張ろうと自分を応援し続けようと思いました。

その後、私は、神奈川県国際研修センターに引越して、色々な国からの友達に出会いました。チーフのように多くの方から、励ましていただきました。

何より、夢への一歩である、大学に合格しました。最初、日本人の友達ができにくいことを悩んでいました。私の日本語は、まだまだ、不十分で伝られない言葉や感情などがものすごくいっぱいあったからです。しかし、私は、心をこめて話せば伝わる、辛いことがあってもそれは、自分への挑戦だ、頑張ろうと思えるようになっていました。今、かなり日本の生活に慣れて、大学生活は楽しいです。授業や勉強だけでなく、ボランティア活動やクラブ活動にも参加しています。うれしいことに、多くの仲間に支えられています。私は、大学で、経済の専門知識を身に付けて、日本で実務経験を積んだ後、ベトナムの産業を発展させたい、そして、日本とベトナムの架け橋になっていきたいと、ますます夢をふくらませています。

そこで、私は、皆さんに、お願いがあります。

私のように、これから、日本に留学を希望する外国の人々はたくさんいると思います。留学生の一人一人の夢の実現に向けて、重要なことは、やはり、人とのつながりだと思います。夢の実現までには、長い年月がかかります。どこにいても同じように辛いことや言葉の問題があります。それを解決するのは、自分自身の心ですが、周りの人々の励ましや何気ない一言に支えられます。それで、くじけそうな自分の心を、また、夢に向かって、歩き続けられます。いろいろな人とのつながりこそが、夢の実現に向けての心の支えになるのです。どうか皆さん、ぜひ、応援してください。

テーマ「地域活性化の進んでいる町の視察についての感想」

屈 博 煒 （中国出身） 法政大学



屈博煒と申します。今は法政大学の大学院修士一年生で、法政大学の地域研究センターの調査員として、先生達と一緒に、「地域活性化のメカニズム」の研究をしていて、地域活性化が進んでいる地域をあちこち視察しました。その中で、一番印象的だったのは徳島県の上勝町の彩り事業です。

彩り事業とは、もみじ、柿、南天、椿の葉っぱなどを料理のつま物として商品化したものです。つまものとは、和食文化の中で、料理を引き立てて、いろどりよく、綺麗に、おいしそうに見えるための素材です。これらの葉っぱは軽くて、女性の方や高齢者でも取扱うことができます。

当時農協の職員であった横石さん（今のいろどり株式会社の社長さん）が、この事業に「彩」という名を付けて、1987年に僅か4軒の生産者から事業を始めて、現在、売上げが約2億6千万円程となっており、参加者は200軒になりました。中には、年収1000万円以上稼ぐ高齢者の方も何人かいらっしゃるそうです。

彩り事業を始めるきっかけは：

昔、上勝町は温州みかんが盛んな町でしたが、昭和 56 年の異常寒波によりほとんどのみかんの木が枯れてしまうという大打撃（ダメージ）を受けて、町の死活問題になりました。

その時、町を救うという強い意欲を持っている横石さんは大阪に出張した時、偶然に料理の飾りとして使われていた葉っぱを大切に持ち帰る女子大生を見て、「そんな葉っぱは、上勝になんぼでもある。これはいける！」というヒントを得て、農家の方々に協力してもらいながら、上勝町の葉っぱを商品化して、本日（ほんにち）に至りました。

簡単に説明をしていますが、実は上勝町の方々は軌道に乗せるまで大変な苦勞をしていたのです。

例えば、

元来（がんらい）、料理の飾りとして使われている葉っぱは、料理屋さん自身が近くの山や庭から取っていたので、別に、どこからかわざわざ買うという認識もなかったんです。そのため、上勝町で彩事業が始まった時、需要がなく事業としては成り立ちませんでした。

それらの難題に対して、

横石さんが2年間をかけて、全国各地を周り、自分で多くの料理店を訪ねて、上勝町の葉っぱをアピールして、交渉を重ねることによって、ようやく販路を開いてきました。今では、海外の日本料理店を拠点にして、世界中に進出するところまで成功しています。

現地の方々の話を聞いたり、葉っぱを商品化する工場を視察したりして、ちょっとしたことをきっかけに思いついたことから事業を起こすことにつなげ、町を復興させた横石さんの「アイデア」と情熱に感服（かんぷく）いたしました。いろんな視察を通じて地域活性化には、素晴らしい資源があっても、それを活かせる人材がいないと、成功にはつながらないケースが多いと思います。しかし、人材をどうやって育成するか？また、どうやって、自分の能力を発揮できる環境を作るのかは地域活性化に大変重要なポイントになるのではないかと感じました。これからも、先生の方で、さらに研究を進め、地域の発展に貢献したいと思います。

テーマ「ベトナムのお正月」

ヌエン ダック ヒュー （ベトナム）横浜国立大学



私の母国ベトナムは東南アジアにあります。大陸の部分の面積はおおよそ33万平方キロメートルで、北から南に長細いSの文字の形をしています。人口は約9千2百万人で、首都は北部にあるハノイです。

今日はこの母国ベトナムのお正月「テット」をみなさんにご紹介したいと思います。

ベトナムは現在も旧暦を使っており、太陽暦のお正月を過ぎした後、私たちはテットという伝統的な旧暦のお正月を迎えます。テットの準備は旧暦の12月23日から始まります。この日ベトナム人はTaoQuanという神を天国に見送る儀式を行います。この神は家族の家事を管理する神であり、家族がこの一年間にした良いこと悪いことを、家族に代わって天国にいる一番上の神様に報告する神でもあります。見送る儀式の際、私達はこの神TaoQuanが鯉に乗って天国へ行くと信じているので、3匹の鯉を湖、川などに放しに行きます。この日からお正月を迎えるため、楽しくて、忙しい準備の週間が始まります。

お正月が来る楽しい雰囲気の中で、街も家も普段よりも何倍もにぎやかになっていきます。花市場も盛大に開催されます。そして、新年を迎えるために、同じ地域に住んでいる人たちは一緒に道をきれいに掃除したり、花の鉢、提灯で飾ったり、新年にいいお祝いの一言の看板をかけたり、国旗を揚げたりすることで街はとても綺麗になります。家族の皆は家を綺麗に掃除したり、運がいいとされる赤いものを家に飾ったりします。皆がいそいそと好きな花、盆栽、縁起物などを選ぶ姿はテットを象徴する光景の一つとなりました。

お正月のお祝いの花は地方により違いがあります。北部はピンクの桃の花、南部は黄色の梅の花です。この花は新年の幸運をもたらしたり、悪魔、邪気、悪運を追い出したりする力があると信じられています。お正月が近づけば近づくほど、準備は楽しくなっていきます。もっとも大切なのは伝統的な料理を作ることです。ベトナムのテット料理といえば、北部の Chung というケーキ、南部の Tet というケーキのことを言います。両方とも、中身の中心は豚肉、外の方へ行くと、よく煮込んだ緑豆、もち米の層があって、それらを固定の形で包んでいるのは Dong という葉っぱです。これをゆでるのに10時間ぐらいかかります。出来上がるまで、家族の皆は集まって、もうすぐ終わる年に自分が過ごしたこと、嬉しかったこと、悲しかったことを話し合っ、悲しかったことを忘れ、一緒に新年の嬉しいこと、幸福を楽しみにします。そして、美しい花火が夜空に上がる瞬間は私達に新しい年が来たことを知らせます。この瞬間はベトナム人にとってとても大事な意味を持っています。自分の夢が叶うよう、親戚、友達に幸運が来るよう願います。

新年の最初の日、私達は神様、先祖へのお参りの後、お寺、神社にお参りに行きます。新しい年に家族が健康で幸せに暮らせるよう、祈りの一言を神様、仏様に届けます。

また、家族のお年寄りや子供たちは、新年に祝福と言う意味でお年玉をもらいます。親戚の家を訪問したり、遊園地、名所に行ったり、春の景色を眺めながら遊んだりするなど、とても盛り上がる雰囲気が街の奥まで溢れます。

テットは我々にとって大変大きな精神的価値があると言えます。ベトナムの経済が発展し、国民の生活が豊かになるに伴って、家族と離れて大都市や遠い所に仕事で行く人が増えてきました。ですから、一年の後に家族と一緒に過ごすテットは大変貴重な機会であり幸せそのものです。また、恩師や友達などと会い、昔の美しい思い出や、近況を話し合ったりするのはとても楽しいです。

テットはとても大事なイベントですが、日本にいる私にとって来年のテットは少し寂しいものになりそうです。私は初めて家族と離れ、外国に留学して、一人でテットを迎えます。生まれたときから過ごしたテットとはまったく違います。けれども、家族と連絡を取り合っていると、互いの間に遠い距離を感じることはなく、もっと前向きに頑張ろうという気持ちになります。どんな遠い所にいても、私だけでなく、ベトナム人の心の中では、テットのような伝統的な文化はとてもとても大切な心の支えとなるのです。

テーマ「バリのお正月」

レディシア サンデラ （インドネシア出身） フェリス女学院大学



皆さん、こんにちは。私はレディシア・サンデラと申します。どうぞよろしくお願いいたします。今回、私は「バリのお正月」についてお話したいと思っております。

皆さんは「新年」というと、何を思い浮かべますか。花火？パーティー？それとも夜中まで遊ぶことですか。

お正月は、新年をお祝いする人にとって一番楽しい日です。インドネシア、特にバリの多くの人々はパーティーをしてお正月を迎えると思います。多くの人々は寝ずに日付が変わるのを待ちます。特に若い人たちは友達とパーティーをしたり、食事したり、花火を見たりするかもしれません。とても楽しそうだと思います。皆さんはどう思いますか。私は、ただパーティーをするだけではなく、前の年にできなかったことの反省をするべきだと思います。おそらく、日本でも若い人たちはインドネシアと同じようにパーティーをしたりすると思います。

次にバリではどのようにお正月を過ごすのか説明したいと思います。バリでも12月31日の夜からお正月をお祝いしますが、バリではヒンドゥー教徒のお正月、ニュピの日もお祝います。このニュピはバリ島の全員のヒンドゥー教の人が行います。ニュピとはサカ暦の新年で今年は3月31日でした。国際的な新年が1月1日であるのに対しニュピはバリのカレンダーに合わせているので毎年日付が違います。

ニュピの前にはムラスティという祭りがあります。この祭りは海岸で行います。ヒンドゥー教の人々は伝統的な服を着ます。ムラスティというニュピの一連の活動です。ムラスティはニュピの三日か四日前に行います。この日にバリ島のヒンドゥー教の人々は神様プラティマという色々なお供え物を海へ持って行き、海に向けて一緒にお祈りをします。ムラスティの目的は、一つ目は人間はいつも神様のことを考えるように、二つ目は助け合うという関係をふやす、三つ目は人間の汚い性格や汚い思いを洗って捨てること、最後は一緒に環境を守るという4つの目的をもっています。

ニュピの前日はオゴオゴという祭りがあります。オゴオゴもニュピの一連の活動です。その時はヒンドゥー教の人々は道で伝統的な音楽をしながら大きい人形を持って回ります。全部怖いイメージを持っている人形です。その時に観光客がたくさん見に来ます。

ニュピの時にはヒンドゥー教徒が行う、チャトゥール・ブラタという4つの慣習があります。一つ目はアマティゲニ、火をつけない。二つ目はアマティカルヤ、いつもの様に仕事をしたり活動したりしない。三つ目はアマティレルガン、外出しない。四つ目はアマティレルアン、食事しないし、テレビやラジオなどの座興のことをしないというものです。ニュピの時、バリの人たちは乗り物を使ってはいけなないので、伝統的な警察しか出かけません。道はとても静かになります。火を使ってはいけなないので夜は電気もつかず、とても暗くなります。

ニュピの意味は静かなと言う意味です。私にとって、ニュピは自分自身を反省し、物思いに耽ることで、新しい年をもっとよくできるようにするための日です。ニュピの時もっとも大事なものは、テレビやラジオなどをつけてはいけないので、家族とコミュニケーションする時間がたくさんできるということです。私の場合は、ニュピの日は家に帰って家族とおしゃべりをします。私はこの前にジョグジャカルタに一人暮らしをしていたので、ジョグジャカルタの生活について話したり、自分の失敗について告白したりしました。それにより家族の暖かさを感じました。夜は真っ暗なので、みんなで一緒に寝ました。

パリのニュピには共通するよい特徴があります。それは去年の失敗を反省し次の年がもっといい年になるようお祈りするということです。インドネシアでも1月1日のお正月の時にただにぎやかにお正月を迎えるのではなく、新たに新年の目標を立ててみます。そうすれば、お正月が、もっと有意義に過ごせるはずと考えています。みなさんもやってみませんか。

テーマ「日中文化の違い」

王 広波 （中国出身） 横浜国立大学 OB



私のスピーチテーマは「日中文化の違い」です。日本に来てから4年目となり、日本での留学生活を通して感じた日中両国の文化方面の異なったことを皆様と共有いたしたいと思います。

1. 贈り物のときの違い

中国文化における『お中元』は旧暦の7月15日にある節です。道教では中元節といい、民間の俗称では鬼節または七月十五ともいいます。日本とは違い、贈り物の習慣が特にありません。

主な活動は祖先を祭祀することです。地域により、形式が違います。

中国文化でプレゼントや贈り物をする時といえば、親類や友達を訪ねる時に、人に何か頼み事をする時、お誕生日、結婚、出産などのお祝いの時に贈り物をします、日本とほぼ同じです。

中国では、最も重視されているのはお正月と仲秋節です。両方とも旧暦の節です。日本と違い、仲秋節はお正月と同じく重視されています。旧暦8月15日（9月下旬）で、ほとんどの人が自分の家族と一緒に月餅を食べながら、家族の円満を味わいます。仲秋節に月餅を食べながら、月見をする習慣もあります。日本人にとって、正月と年越しそばが切り離せないように、中国人にとって仲秋節では、月餅はなくてはならない食べ物です。現在は、中秋節が近づく頃、親しい人やお世話になっている人にこれを贈ることが盛んです。

日本人は親類や友人を訪れる時や、人に何か頼み事をする時によく贈り物をします。この点は中国もだいたい同じですが、日本人はお世話になった後に、依頼ごとの結果によって贈り物をするのが一般的なのに対して、中国人は普通事前に贈る、人に頼み事をする以上、まず気持ちを表さなければならないと考えるからです。

日本人は普段お世話になった人に感謝の気持ちを表すために、『お中元』や『お歳暮』の贈り物をします。中国人は日本人のように習慣的に『お中元』、『お歳暮』の時期に贈り物をするのではなく、たいてい親類や友達を訪ねる時とか、誕生日などのお祝いや、人に何か頼み事をする時に贈り物をします。

贈り物に関する数字は、日本人は奇数を好み、ご祝儀も1万円、3万円、5万円を出すことが多いし、贈り物をする場合も奇数が多いです。中国人は逆に偶数を好み、贈り物をする場合ほとんど偶数です。特に結婚のお祝いは必ず偶数で『対になって、共に白髪になるまで祈っている』の意味なので、これが奇数なら何となく不吉に思われます。

日本では新築祝いや結婚祝いなどに置き時計を贈るのは平気です。中国人は置き時計を贈られるのがあまり好きじゃないです。特に年寄りには嫌がります。『置き時計を贈る』というのは中国語では『送鐘』です。「鐘」と「終」の発音が同じで、「送終」は「死後の見送り」の意味もあり、中国人の習慣からみれば、それは不吉な物となります。とにかく縁起の悪い文字と同じ音の物は嫌われます。これは日本人が『四』という数を嫌うのと同じです。

数字に対して、日本人は『四』と『九』を好まないですが、中国人は『四』と『十三』という数字があまり好きじゃないです。中国語では、『四』と『死』の発音が近いです。時計に『十三』という数はないため、真ん中の十二時よりも行き過ぎています。傾いていることから『十三』又は『十三点』と言って、『ばか』、『間違い』の意味で罵る言葉にも使われるからです。

色のもつ意味も中国と日本ではちょっと違います。中国では赤はめでたい色です。結婚、誕生などの行事やお祝いに不可欠な色です。昔のお嫁さんは真っ赤な中国服か洋服を着ることが多かったのですが、今でも純白のウェディング・ドレスを着ても、赤い花やピンなど、必ず身体のどこかに赤い色をつけています。お年玉の袋も真っ赤で、年賀カードも赤色が多いです。逆に、白は不幸を表します。お葬式の時に白い花をつけます

2. 言葉の表現の違い

まずは、丁寧語の使い方の違いです。日本語の場合、「お野菜」「おねぎ」「おいも」「おなす」はありますが、「おほうれん草」「おかぼちゃ」「おトマト」「おキャベツ」「おもやし」とはいわない。海産物で言えば「お魚」「お刺身」とは言うが「お鯛」「おマグロ」など個々の魚に「お」を付けることはない。調味料は「お醤油」「お味噌」「お酢」「お塩」「お砂糖」とは言うが「お胡椒」「お唐辛子」「おスパイス」とは言わない。「おそば」とは言うが「おラーメン」とは言わない。このように法則性がまるでないため結局丸暗記で一つ一つ記憶するしかないとわかりました。しかし、中国語には「お」のようは丁寧語はあまりないです。

2つ目は、謝りについてです。

中国では自分が悪いことをしない限り、なかなかあやまらないのが通常ですが、日本では、「ごめんなさい」「すみません」という言葉はよく聞こえます。

3つ目は、挨拶の言葉です。

「遊びに来てくださいね」日本人は心からそう思ってなくても平気で人をさそいます。中国人は、これがただの挨拶だと思わず、本当の誘いだと思ってしまったケースがよくあります。

3. 生活慣習の違い

一つ目、日本の「こんにちは」と同じように、中国で「ご飯食べ終わった？」は挨拶言葉です。親しい者同士が食事時に顔を会わせれば「ご飯食べました？」と言う言葉がごく自然に出て来ます。

二つ目、中国では「四つ足のものは机以外、飛ぶものは飛行機以外、水中のものは潜水艦以外なら何でも食べる」と言われるほどですが、日本では、ハトと亀は食べてはいけないと思われれます。

三つ目、会食のとき、中国には日本人のような「ワリカン」の習慣がありません。

四つ目、中国では、買い物のとき、日本と違って値引きを要求することが普通です。

以上、簡単ながら、代表的な方面から日中文化の違いについて述べました。

テーマ「日本の留学で学んだこと」

ルブサンダンドル プレツェンゲル
(モンゴル出身) 横浜国立大学



はじめまして、私はモンゴルから来ましたルブサンダンドルプレツェンゲルです。‘ツェンゲル’と呼んでください。今日は私の日本での留学生活についてお話させていただきます。

モンゴルでは私は家と学校しか行かない小さな世界に住む普通の女の子でした。しかし、私は日本にきて 確実に変わり、大きく成長しました。大阪で1年間日本語を学び、その後4年間東北大学で経済学を学びました。今は横浜国立大学の修士課程です。

日本語学校と大学に入ったばかりの頃は日本語学習だけで精いっぱいでした。日本語がうまくできなくて、友達に頼り助けてもらっていました。日本語の表現で分かりにくいものがたくさんありました。

お店の人に「かしこまりました」、と言われ、何に困っているのかわからず困りました！「お茶でもいいか でしょうか」と言われた時は、「お茶はいくらでしょうか？」と値段を聞かれたと思い、なぜ私にお茶の値段を聞いているのか不思議でした。日本には方言もあります。日本人の友達に「ゴミ投げてきて」と言われて

あれ、投げたら散らばってしまうのではないかととまどってしまいました。仙台では、捨てることを投げると言っていました。

また日本文化に驚いた多数のエピソードをお話することができます。温泉に入ってみたらみんな裸でびっくりしました。祭りに行ったら普通の市民たちが歌って、踊っていました。モンゴルではプロの歌手やダンサーを呼んでお祝いをします。初めて泊まった日本人のホストさんの家で、一番目にお風呂に入りました。お風呂を上がるときは、もちろんモンゴルで普段のようにきれいに水を流しておきました。みんなの一つの お湯を使うのだって知りませんでした。日本では寒い冬でもスカートをはいている女の子をよく見かけます。女の人はスカートをはくという暗黙のルールがあるのかなと思いました。男が鞆を肩に持っていたらモンゴルではおかしい人だと思われるでしょう。

そんな異文化体験をしながら、6年間はあっという間に過ぎました。写真をご覧いただきながら、何をやってきたかいくつか具体的な例をあげましょう。

モンゴルからの留学生として学業はもちろんのことですが、母国のことをもっと周りの人たちにわかってもらいたいと考えました。また日本という国、そこに住む人々を少しでも深く知りたくていろいろ努力して

きました。モンゴルの伝統的な服デールをきて見せたり、モンゴルのことを大草原と急速な経済発展と一緒に説明したりしました。そして日本人のホストファミリーとゆっくりと時間をかけて習慣の違いなどを話し合ったりしました。そう努力しているうちに、ちっぽけな恥ずかしがりやの私は目立つことに慣れてきて、意見をはっきりとしかも人前で伝えられるようになりました。

そしてさらに自分のスキルをいろんな面で上達させるため、いろいろ経験をつんできました。ボランティア活動で大震災の被害者たちを自分なりに手伝いました。英語力を生かして幼稚園の子供から大学生まで英語を教えるアルバイトしました。外国人市民と日本人市民の架け橋、留学生交流委員としてリーダー

シップとチームワークをより厳密に学びました。

以前はモンゴルの政府機関で経済学者として働きたいという考えでした。しかし、いつの間にかアジア開発銀行のような国際的環境で働きたいと思うようになりました。モンゴルの人々、そして世界の人々に役に立つような仕事をしたいと変わってきました。日本に留学したラッキーなモンゴル人学生にとどまらず地球市民と なって、夢を手元に引き寄せていきたいです。

東日本大震災のとき、私は仙台市に住んでいました。震災の影響、そのあとの復興活動をすぐ近くで観察 してきて、命の大切さ、絆って何なのか、素晴らしき日本人の皆様から学びました。そこで、自分の周りにも大事にしていくべき絆があることに改めて気づきました。生まれたその瞬間から当たり前のようにそばにいてくれる両親、弟たちと妹、私の大切な“家族“です。また日本で仲良くなった世界中からの友達があります。その絆一つ一つもっと大切にしていくと同時に新しい絆も作り上げていきます。

皆さん！今日誰か大切な人に簡単でいいですから一言挨拶いかがでしょうか？

私がこれからあゆみたい道はどれなのか、どういう人と一緒に歩みたいのか、私にとって何より大事なものは家族と仲間たちなのだと気づきさせてくれました。

第2のふるさとになった、大好きな日本ありがとうございます。初恋もありましたし、一生の仲間たちとの出会いもありました。将来の夢を与えてくれた数え切れないほどの新しい経験と冒険の毎日は私の人生で一番充実した時間でした。

今日この場をかりて、私をいつも見守ってくれる大切な家族、たくさんの人々に改めて感謝申し上げます。私はこれからも精いっぱい頑張っていきます。

Т а б ү х э н д э э б а я р л а л а а .

Thank you so much for all the love you have given me.

以上、私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。

私たちは：

留学生が留学を終了したとき、振り返って、日本に来てよかったと回想してもらえよう、できる範囲で留学生を支援します。このことにより、親日家が増えることを期待します。

私たちのモットーは：

みんなで
少しずつ会の
運営に参加しながら
留学生がハッピーになるよう
できる範囲で
楽しくやることです。

NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK)

Ryugakusei to Katariau Kai (RKK)

Relationship and Kindness are the Kings of Peace

Friendship Association for International Students

and Japanese Volunteers